



# 慣行の60%量の配合飼料または地域産飼料だけで日本短角種を肥育する技術

総合研究部 総合研究第2チーム 電話019-643-3412

## 研究のねらい

日本短角種の肉を地域産飼料による高い自給率で生産するため、「岩手県生産技術体系(日本短角種)」の技術目標である650kgを目標体重とし、輸入穀物を主原料とする市販の配合飼料の給与量を減らす肥育技術、または地域産飼料だけを給与する肥育技術を開発する。

## 成果の内容

- ① 配合飼料の給与量を慣行の約60%に減らしても(表1)、約24か月齢で目標体重に到達させることができる(表2)。
- ② 配合飼料の代わりに、地域産飼料のフスマとリンゴジュース粕を給与しても(表1)、約26か月齢で目標体重に到達させることができる(表2)。
- ③ 枝肉重量は慣行の肥育に比べて少ないが、同等の枝肉成績が得られる(表2)。
- ④ 濃厚飼料費は、慣行の肥育に比べて、「配合飼料の給与量を減らす肥育」で65千円少なく、「地域産飼料だけを給与する肥育」で87千円少ない(表2)。
- ⑤ 枝肉1kgの生産に必要な濃厚飼料費は、慣行の肥育に比べて、「配合飼料の給与量を減らす肥育」で150円少なく、「地域産飼料だけを給与する肥育」で209円少ない(表2)。

表1 各肥育方法の1日当たりの濃厚飼料給与および総給与量(原物, kg)

		月齢														総給与量	
		10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23		24
慣行の肥育	: 配合飼料	-----														4000以上	
配合飼料の給与量を減らす肥育	: 配合飼料	1	2	3	4	5	6	7	8	9	9	9	9	9	0	0	2480
地域産飼料だけを給与する肥育	: フスマ	1	2	3	4	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	3	1791
	: リンゴジュース粕	0	0	0	0	0	1	2	3	4	4	4	4	3	3	2	972

注) 慣行の肥育のデータは聞き取り調査などの結果を基に推定したもの。  
 配合飼料: 市販品 (43円/kg)。フスマ: 南部小麦のフスマ (30円/kg)。リンゴジュース粕: リンゴ絞り粕の乾燥物 (32円/kg)。  
 粗飼料として牧草(チモシー)のロールペールラップサイレージを飽食(1日平均給与量約5kg、総給与量2288kg)。

表2 各肥育方法の屠畜月齢、屠畜体重、枝肉成績および濃厚飼料費

	屠畜月齢	屠畜体重 (kg)	枝肉重量 (kg)	歩留等級	肉質等級	濃厚飼料費 (千円)	濃厚飼料費/枝肉重量 (円/kg)
慣行の肥育	24 (22-26)	650以上	390 (360-420)	Aが約60%	1と2で約95%	172	441
配合飼料の給与量を減らす肥育	23.6	636	368	A	2.0	107	291
地域産飼料だけを給与する肥育	25.7	643	367	A	2.0	85	232

注) 慣行の肥育のデータは聞き取り調査などの結果を基に推定したもの。  
 歩留等級: C等級からA等級。最高はA等級。歩留基準値(枝肉中の肉割合の目安)が72以上でA等級。  
 肉質等級: 1等級から5等級。最高は5等級。

## 成果の利活用

地域の飼料資源を有効に活用し、低コストで日本短角種の肉を生産する際の参考となる。

独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構  
 東北農業研究センター  
<http://tohoku.naro.affrc.go.jp/>

〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平4  
 TEL 019-643-3433(代表)  
 FAX 019-641-7794(代表)